

### 歴史民俗資料館が移転します

歴史民俗資料館は令和4年4月1日(金)より、図書館棟の1階に移転・リニューアルオープンします。

新しい資料館では展示も一新し、郷土の歴史や自然、災害、昔のくらしなどテーマごとに分かりやすく紹介します。また、弥富金魚や文鳥のふれあいコーナー、昔のくらしが体感できるコーナーなども開設予定です。子どもから大人まで楽しく学べる資料館のオープンを、楽しみにお待ちください。

なお、資料館では今後、昭和時代のくらしについても資料の収集や展示を行っていきます。昭和の弥富で撮影された写真やニッケ弥富工場に関する資料などを探しています。昭和の家電品なども集めていますので、お気軽にお問い合わせ下さい。※移転準備のため、現在の展示施設は11月29日(月)から閉館します(窓口業務は通常通り行います)。

図書館棟改修工事中は皆さまにご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いします。



#### 昭和の写真募集中!

昭和の弥富で撮影された写真を探しています。昔なつかしい風景や学校・地域の行事など、時期やテーマは問いません。大切な写真はデータ化した後にお返しします。写真の寄贈も募集しています。

☎歴史民俗資料館



### 重要文化財服部家住宅の観月会

服部家住宅で、中秋の名月やおもむきのある時間が楽しめる観月会を開催します。

と き 9月19日(日) 午後4時30分~7時

と ころ 服部家住宅

▼内 容 見学会、茶会、石田流生花の展示  
神楽太鼓・雅楽演奏会・浦安の舞  
(森津保存会)  
▼定 員 50名(先着順)  
※未就学児は入場いただけません  
▼料 金 500円  
(文化財保護費、呈茶代。小学生は無料)

▼申 込 方 法 電話にて申し込みください。

▼共 催 やとみふるさとガイドボランティア  
※マスクをご着用の上で入場をお願いします。  
※11月21日(日)には、服部家住宅の見学会を開催予定です。

☎・申 歴史民俗資料館(月・火曜日休館) ☎65-4355



# 広島研修

### 「平和論」

弥富中学校 中島 麻登

#### 【被爆ピアノコンサート】

コンサートが始まると、舞台の幕が上がり、1台のピアノが姿を現した。

そのピアノは、何ともいえぬような立派な姿であった。作られたのは、今から百年ほどだったという。どおりで貴族があふれたピアノだと思った。

このピアノは、戦時中の広島市の住宅にあり、1945年8月6日の広島市への原爆投下の際には被爆したそうだ。ピアノは、爆心地から、約1.5km離れたところにあり、被爆した当時はボロボロだったそうだ。ちなみに、爆心地から3km以内の地点はすべて燃えてしまったというから、被爆ピアノが燃えずに済んだことは、本当に奇跡のように感じられる。

そんな中、無事矢川さんの元に渡ったピアノは、弦が何本かちぎれていて、中にはガラスのようなものがいっぱいつまっていたそうだ。そんなピアノを生きかえらせた矢川さんは本当にすごい方だと思った。

そして、演奏が始まり、ピアノの音色が辺り一面に響き渡った。その音色は、なめらかというわけではなく、一音一音がちゃんと独立して、きわだっていた。それはまるで、一音一音が戦争反対を訴える一人一人のようだった。

僕は、このピアノを通して、より多くの方が原爆のおそろしさ、戦争のおそろしさを知ってほしいと思った。そして、このピアノが次の世代へちゃんと受け継がれていくことを願っている。

#### 【まとめ】

今回、僕はこのレポートを書いていて思ったことがある。それは、戦時中が今の生活とは、とてもかけ離れたものであるということだ。僕が戦争の重大さについて深く理解できるようになったのは、つい最近のことだ。それまでは、知識として「日本は昔大変な戦争があった」という認識しかなかった。戦争の本当の重大さについては、まったく知らなかったのである。これを今の平和な生活のせいと全面的に押しつけるわけではないが、戦争の本当の悲惨さを知ったとき、とても衝撃的だった。

とくに印象に残ったのが広島市の原爆投下直後の町の様子だ。原爆投下直後、人々の中には、両手を前に突き出し、大やけどした皮膚がずるりとむけ、指先で垂れ下がっている赤い幽霊のような人の集団が歩いていて、まるで地獄のようだったという新井俊一郎さんの言葉がある。これは本当のことを言っているのかと僕は疑った。そんな非現実なことが本当に現実で起こりうるのかと不思議に思った。しかし、これは現実なのだと思えるしかなかった。

僕は、今回の一連の平和学習で、戦争の事実を知ったからこそ、それを土台にして、今度は平和について考えていきたい。戦争の事実を知って、初めて平和について考えることができるのだ。

これからは、過去の歴史だけでなく、世の中の動きについても捉え、世の中が平和になるためには、自分に少しでも貢献できることがないか日々模索していきたい。



### 「平和について考える」

弥富中学校 木全 蒼衣

#### 【被爆ピアノから学ぶ】

広島での空襲の被害を受けたのは、人だけではありませんでした。たくさんの花や木、そして夢や希望、その中にピアノもありました。爆風などによって傷ついたピアノ。目の前にあるピアノは被爆を経験し、ガラスがたくさん入っていたとは思えない、きれいな音色を響かせました。でもやはり、私たちの思う「普通のピアノ」とは少し違って、心なしか、切なく悲しいような音色に私は聴こえて、改めて戦争の辛さを感じました。長い年月が経っても、このピアノはたくさんの人に平和について教えてくれることなのでしょう。

#### 【被爆体験を語り継ぐ】

終戦に近づくにつれ、物は何もかも不足していました。また、中学生は勉強をするのではなく、休みのない労働生活を行っていました。広島での原爆体験した、当時中学生だった「しゅんちゃん」と呼ばれていた少年は、家を壊す「建物疎開作業」や慣れない畑作業を繰り返す毎日でした。そんな中、広島に帰る途中「しゅんちゃん」は被爆しました。ほとんどの人の服は焼けて裸で幽霊のように何百人・何千人と歩いていました。道は倒れた人々で埋め尽くされ、家屋もすべて焼かれてしまいました。その何十年も後になって放射線によってがんが5回も見つかった人、白血病で亡くなってしまった人。原爆はまだ終わっていませんでした。何年経っても何十年経っても原爆によって傷ついた傷は一生をかけても治らないことが原爆・戦争のとても恐ろしいところだと思いました。

傷ついたのは体だけではなくありませんでした。原爆から逃げている途中に何人もの人に「助けて!」と言われたそうです。しかし、逃げることに夢中で助けることができなかったといいます。その後悔を人に話さず、心に一人でしまい込んでしまうのがどれほど辛く苦しかったでしょう。生き残っても辛いのです。死ぬだけが戦争ではないのです。私はそのことを初めて知り、改めて戦争の辛さ、残酷さを感じました。妹尾さんはバトンをもらったと言っていました。そして、戦争・原爆の辛さを親や友達に伝えてほしいと言いました。私はバトンを落とさずにきちんとつないでいかなければならないと思いました。そして二度と戦争を起こさないようにするためには声をあげ続けることが必要だそうです。その声がかき消されることがないような社会でありたいと思いました。

